

人文学部と小美玉市と地方創生で意見交換会 協定締結の記念で

茨城大学人文学部と、同学部が連携協定を締結している小美玉市との共催による、地方創生の在り方を巡る意見交換会が4月24日、同市内で開かれた。人文学部から佐川泰弘ゼミ、馬渡剛ゼミを中心に計27人が参加、小美玉市職員、市民らとの間で活発な討議が交わされた。



第一部で市側は、酪農など特産物を切り札に産業を発展させる地方版総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」などを説明。これを受けて、第2部の馬渡剛教授の司会で討論会がスタートした。

冒頭、馬渡ゼミの4年生が「小美玉市が就職先となる選択肢はない」と刺激的な発言を披露、これに触発されて場内から「第1次産業や観光など魅力的な就業先がある」（市内の酪農家）、「若者に小美玉で生活したいとの願望があることだけは確か」（市区長会会長）、「田舎でも都会でもなく住みやすい、ひとのつながりが素晴らしい」などと反発する声が相次いだ。



関連して市側が、若者の流入や移住定策などについて説明、こ



れに対しては、場内から「効果が表れるのに数年かかるかもしれないとの発言は危機感が足りない」との手厳しい意見も出た。

最後に、島田穰一市長と佐川泰弘学部長が「今後の人文学部と小美玉市との直接の広がりにも明るい未来を予測させる有意義な試みで



あり、大学の知を地域に還元し、政策につなげる有意義な事業である」と総括した。

馬渡教授は、今回のイベントについて「協定締結記念の一環として行われた討論会での議論をまちづくりや地方版総合戦略に活かしていくとともに、学生による市の観光PR動画の作成と発信なども展開していく予定」と語っている。

イベントには、馬渡ゼミの学生や市民など 220 人が参加した。学部後援会の支援で大学から会場へのバスが用意された。

(終)

